

おおいそ学園が「子どもの最善の利益のために」できること

自立支援課長 荒木宏治

おおいそ学園（以下、「当園」という）には、「教護院」と呼ばれていた頃には、虞犯・触法少年が主な対象として入所していましたが、「児童自立支援施設」となり支援対象が幅広になる中で、近年は軽度の知的障害の児童をはじめ ADHD や ASD などの広汎性発達障害など医療対応の必要な児童が 7 割を超えるなど、多くの配慮を要する児童が入所しています。

しかし、時代が変わり施設の目的が教護から自立支援になった今でも、思春期を迎えた児童の多くは、大人との関係不調で不適応行動を起こすなど、大人に対する不信感があります。これを払拭するために信頼できる大人として、約束を守る事、見捨てない事、感情的な叱り方をしない事など、児童を理解し、受け入れることで、児童の大人像が徐々に変わっていきます。

このように年齢や成熟度に応じて児童の意向を尊重しながら社会的に自立を支援していく考え、また寮生活を通じ児童と苦楽を共にする「WITH の精神」という考えで、関係性を築いていくという対応の根幹は今も変わりません。

しかしながら、施設の課題はその時々に応じ変化しており、今年度、特に義務教育卒業年齢児（以下、「高等部生」という）に対する支援の課題について、「園内課題解決プロジェクトチーム」を設け、下記のとおり検討を始めたところです。

1. 高等部生寮の設置及び支援の検討

当園の梅寮は同一寮に高等部生と中学

生のユニットが混在しているため、日課のずれが生じるなか、自由度の高い高等部生と中学生の不公平感や業務の多様さが課題になっています。

そこで、高等部生と中学生を分離する高等部の単独寮の設置や高等部生が高校へ進学した場合、今以上に外部での活動も多くなることから、支援方法（枠の少ない支援）について検討をしていきます。

2. リービングケア・アフターケアの充実

当園の高等部生においては、学園内での農作業や園外実習を行いながら就労、退所を目指すケースが殆どですが、退所後の生活や就労状況が安定しないことが課題となっています。

そこで、当園から措置解除された児童（ケアリーバー）の退所後の生活場所となる「在宅」「自立援助ホーム」「グループ・ホーム」及び「児童自立生活援助事業Ⅱ型」で自立した生活を営むことができるよう、退所後の急激な生活スタイルの変化による不適応を軽減させる取組みについて、検討していきます。

このように、現況に即した課題を適宜解決することで、児童自立支援施設としての役割を果たすとともに「子どもの最善の利益」の実現に向け取り組んでいきたいと思ひます。

生沢分校通信

第 3 回前籍校・児童相談所連絡会

1 月 30 日(木)、多くの方々にご参加いただき、第 3 回前籍校・児童相談所連絡会を実施しました。今年度はコロナ前の形に戻して本館 2 階会議室にて全体会を行い、その後各教室へ移動し個別懇談会を行いました。

今回は中学 3 年生以外の児童・生徒たちについて、前籍校、児童相談所、おおいそ学園、分校の四者が最近の様子や変容について情報交換を行うとともに、次年度に向けて具体的な見通しや支援について話し合いが行われました。

また、子どもたちは前籍校の先生や児童相談所の方々と会ってお話ができたと喜んでいました。

話し合いの結果について、学園、分校でしっかり共有しこれからの支援に生かしていきたいと思います。

(分校 生徒指導担当 清水 基)

中 3 生 進路決定に向けて

今年度は 3 年生 11 名全員が、高校進学を目標に努力を重ねています。

生徒たちは、中学校を卒業した後、どのような学校に進み、どんなことを学びたいかについて真剣に向き合い、進路選択を考えてきました。それぞれ学校説明会に参加した上で、児童相談所、学園の職員さんや分校教諭との話し合いを重ね、受験校を決定しました。出願後は、入学試験合格に向け、主体的に学習に取り組んでいました。また、面接試験を控えている生徒は、面接練習に繰り返し臨みました。自分の目標や夢に向けて努力をした経験は、必ず今後の人生の糧となります。

進路決定の後には、いよいよ卒業式です。中学校生活を悔いなく終え、気持ちよく新たな春を迎えられるよう、気を引き締めて、卒業までの日々を過ごしましょう。

(分校 中 3 主任 内田 淳実)

湘南ベルマーレ「サッカー教室」

12 月 13 日(金)の 3、4 校時に、湘南ベルマーレ巡回授業がありました。当日湘南ベルマーレのコーチが来校され、競技性を取り入れた準備体操や工夫されたゲームなどを教わりました。サッカーが大好きな子はもちろん、サッカーの苦手な子も楽しめるような活動でした。「サッカーはとても楽しかったです。もっとサッカーしたくなりました」などたくさんの喜びの声がありました。子どもたちは、改めてサッカーの楽しさを実感したようです。

(分校 小学部主任 迫田 卓士)



オール道德

今年度はオール道德の一環で、陸上競技選手の末續慎吾選手を招き、講演をしていただきました。オリンピックでメダルを獲った選手でもあり、生徒たちはその姿に感動しつつも、末續選手のお話に真剣に耳を傾けていました。また、生徒一人ひとりの発言にも向き合っていたいただき、その温かいやりとりにより多く発言が見られたように感じます。「好きなことを続けること」「自分なんか、と考えるのではなく自分が、と考えること」など、末續選手が人生をかけて、努力してきたからこそその言葉が、生徒に響いたのではないのでしょうか。講演後の陸上教室では、速く走るコツを直接ご指導いただき、最後には末續選手と競走もしていただきました。ぐんぐん離れていく背中に、プロの凄さを感じているようでした。

(分校 道德担当 松本 裕貴)

おいそ学園通信①

～年末発表会～

令和 6 年も年末発表会を無事に迎え、一年を締めくくることが出来ました。
児童は自分の得意なことを生かした出し物や新しくチャレンジする出し物に取り組み、この日のために練習を重ねました。

当日は大勢の前での発表となり、成功！！や惜しい！！そんな苦い経験もありましたが、最後まで一生懸命演技をやり遂げました。

それでは寮の感想を紹介致します。

(竹寮 椿)

桂寮

今回の年末発表会では児童それぞれが披露をしたいとの思いで、桂寮恒例の「クリスマスソング」「ドイツ語での歓喜の歌」等の合唱ではなくディアボロ発表、サッカーのフリースタイル、卓球、寮紹介を行いました。

迷いに迷い練習時間が短くなってしまった児童や、緊張に耐えられなかった児童もいましたが、壇上での児童は真剣に堂々と披露していました。サポート陣も声を出し応援をしました。一体感の感じられる良い経験となりました。

(桂寮 井田)

竹寮

竹寮では、けん玉・歌・ジャグリング(ボイ・皿回し・デビルスティック)・ダブルダッチなど、得意技や初めてチャレンジする技を披露しました。

二人や三人での出し物もあり、当日ギリギリまで技が決まらず、また練習中にケガをしてしまった子どももいてハプニング続きで、職員の方がハラハラ・ドキドキでした。職員の心配もつゆ知らず、子どもたちは楽しんでいました。

当日は良い緊張感を持って大勢の前で堂々とした発表をして、会場からも手拍子や歓声が沸き上がりました。

最後まで諦めずに発表した子どもたちの目はキラキラと輝いていました。この経験が自らの自信につながることを願っております。

(竹寮 椿)

梅寮

梅寮では、リフティング、音楽演奏、ディアボロなど、児童一人ひとりが自分のやりたいことを考え、発表しました。

練習では、それぞれの演目を成功させるために、一生懸命取り組んでいました。

発表当日は、緊張した様子もなく、堂々とした態度でステージに立ち、練習の成果を発揮し、かっこよく演目を披露し、会場を沸かせました。

発表後は、達成感からか、満足するような笑顔を浮かべ、これからの生活にも自信がつくような体験になったのではないかと感じました。

(梅寮 玉置)



桂寮

寒さが厳しい時期になってきましたが、児童は元気に外遊びをしています。現在は 10 名の児童が在籍しています。年度当初は 3 名でしたが、その後 1 名が退所、新たに 8 名が入所し、昨年度とはまた違ったタイプの集団になっています。この集団ならではの良いところ、難しいところがあります。今年もコミュニケーションを苦手としている児童が多く、所々でトラブルがおきるため、その都度話をしながら良くするためにはどうしたらいいか考えています。その繰り返しをする中で徐々に皆の生活が安定してきています。ただ、対応に時間がかかる児童もいますので、寮以外の助けを借り、試行錯誤しながら支援を進めています。今年度は 3 年生が 3 名おりますので、この時期は、高校や退所先と進路を決める大事な時期です。受験が終わり、退所先が決まるまでなかなか落ちつかない状態ですが、しっかりやっていかなければなりません。

(桂寮 風間)

竹寮

まだクリスマスの余韻が残る年末、門松作りを行いました。費用節約のため、土台のバケツは床清掃で使ったワックスの空きバケツを再利用。青竹はもちろん園内の竹林から切り出し斜めにカット。さらに飾りは園内で集めた松の枝やみかん、カラスウリの実など。何もないところから作業を始め約 1 時間で完成。昨年手伝ってくれた児童は器用に藁の長さをはさみで揃えてくれました。新米の藁の香りが心地よい中、児童から「うわーすげー」と驚きの声が上がっていました。

(竹寮 松本)

梅寮

梅寮は高等部生と中学生と一緒に生活しています。高等部生は生活の様々な面で真面目に取り組む、トイレもピカピカに掃除します。それに負けじと中学生もごしごしとトイレ掃除をします。日曜日には高等部生、中学生と一緒にグラウンドで野球、体育館でサッカーを真剣に、そして楽しくプレーして過ごしたりします。模範となる先輩(高等部生)とそれを慕う可愛い後輩(中学生)が梅寮を作り上げてくれています。

(梅寮 渡部)

おいそ学園通信②

～クラブ活動報告(陸上部)～

陸上部の活動として、児童福祉施設駅伝大会、卒業生送別マラソン大会、大磯一周駅伝大会に参加しました。参加した3つの大会は、天候に恵まれ、走るには上々のコンディションでした。

学園の参加メンバーについては、「朝マラソンの頑張り」「練習態度・意欲」を基準にして、メンバー選考を行いました。練習は、児童が主体的になり、練習メニューを考え実施、また時間配分に気をつけながら、練習を行いました。今年の陸上部は例年以上に練習の熱量が高く、切磋琢磨し合いながら本番に臨みました。

大会前日に体調不良者が出るなど、チームとして万全とはいかない場面もありましたが、当日は一人ひとりがモチベーション高く、みな良い走りで大健闘でした。

日頃の成果が実を結び、とても良い一日となりました。

(梅寮 玉置)

～あすなろ交歓会・作品展～

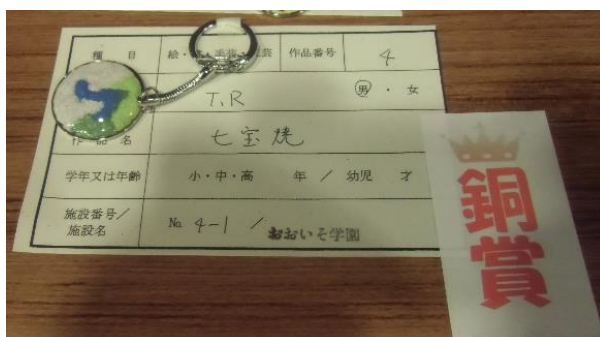
あすなろ交歓会では、児童の選抜メンバーで「ディアボロ」(中国コマ)を披露しました。

「ディアボロ」の練習は、夏頃からスタート。11月の「関東少年文化祭」では堂々と演じることができました。その勢いもあり、今回の「あすなろ交歓会」に向けては「中学3年生でも出られますか?」「新技ができました。見てください」といった前向きな発言が多く聞かれました。

そして交歓会当日、児童たちは見事に「ディアボロ」を演じ切りました。今回の経験を通じて、人前に立って披露する楽しさや、緊張を乗り越える力が身に付いたら良いと思います。

また、同時に開催されたあすなろ作品展では、分校で作成した絵画や工芸品などを出品、10点もの作品が「銅賞」を受賞しました。子どもたちには、こういった創作活動を行いながら、感性や個性を伸ばして欲しいと思います。

(梅寮 松本)



【編集後記】

今年度は新型コロナウイルスの行動制限が緩和され、様々な行事がほぼコロナ渦以前の規模で開催することができました。どの行事も思い出に残るものになったと思います。来年度も、児童と職員が一丸となって頑張っていきたいと思います。(広報委員会)